



和小だより

弟子屈町立和琴小学校

1月31日 発行者 校長 大山 道弘

～学校と家庭と地域で子育てする和琴小～

■学校教育目標

よく考え正しく判断できる子 (知)

強い心と体でやり抜く子 (体)

優しい心で助け合う子 (徳)



おごい教育

校長 大山 道弘

穏やかな天候に恵まれた冬休みを終え、たくさん
の楽しかった思い出を抱えて、子どもたちが学校に
戻ってきました。始業式の翌日からスケート学習が
始まりました。今週は冬のスポーツフェスティバル
があり、あっという間にスケート学習のシーズンが
終わってしまいます。しかし、冬は、まだまだ続きます。
子どもたちには、冬にしかできない活動を満喫
してほしいです。

さて、昨年のNHK大河ドラマ「どうする家康」で
は、今までの徳川家康のイメージとは少し違った描
き方をしていたため、興味深く視聴させて頂きまし
た。その徳川家康にまつわる逸話を紹介します。

家康(竹千代)は、幼少期に隣国の大名である今
川義元の人質として暮らしていました。義元は家臣
に対し、「竹千代に『おごい教育』をせよ」と命じ
ました。家臣は、竹千代を日が昇る前から起こし、
粗末な食べ物しか与えず、一日中剣術、武術、馬
術、夜は学問をさせ、毎日くたくたになるまでしご
きました。竹千代の様子を義元に問われた家臣は、
一部始終を得意気に報告すると、義元は「それは
『おごい教育』ではない。お前たちは余の意図が分
からんのか」と激怒されたそうです。続けて「これ
からは、寝たいと言ったら好きなだけ寝かせてや
れ、贅沢なご馳走をたらふく食わせてやれ、嫌がる
ことはさせるな、好きなことをさせる。夏は暑くない
ように、冬は寒くないようにしてやれ、欲しいとい
った物は何でも与えてやれ」と命じ、最後に一言
「そうすれば大概の人間はだめになる」と諭しまし
た。

この話から、子どものわがママを全て受け入れ、
必要以上に甘やかし、我慢する心を奪うことが「お
ごい教育」だと理解することができます。努力や苦
労を経験させず、楽しく便利で心地よい生活を与え
ることは、「大概の人間はだめになる」ことへと繋が
ります。

将来、社会に出た子どもたちは、困難なことに直
面するかもしれません。教育や子育てで大切なこと
は、過保護にして挫折から守ってあげることではな
く、挫折をすることがあっても、逆境を乗り越える
経験をさせることだと考えています。大人が先回り
して困難を取り除こうとすれば、逆境に弱い人間に
なり、将来子どもたちが苦勞することになります。
個に応じた適度な辛さや我慢、苦しみなどの負荷を
経験させ、それを自分の力で乗り越えさせること
で、「自分もやればできる」という自信になり、心
の強い人間へと成長するのではないのでしょうか。

47日間という短い3学期ですが、子どもたちが
進学・進級へ向けて、昇り竜のように力強く飛翔す
るように教職員一同努めて参ります。今年もどうぞ
よろしくお願ひいたします。

■2月の行事 下校時刻は、前半が5時間・後半が6時間

日	曜	行 事	下校時刻	給食
1	木	安全点検日 図書館バス 冬期避難訓練	14:00 14:55	○
2	金	ALT クラブ 二計測 4・6年 スポフェス予備日	14:00 15:20	○
3	土	週休日		×
4	日	週休日		×
5	月	表現教室① 児童委員会	14:00 15:20	○
6	火	ALT 食育指導(低・高)	14:00 14:55	○
7	水	食育指導(中) お話タイム	14:00	○
8	木	4時間授業 避難訓練予備日	12:45	○
9	金	冬のふるさと体験学習 ALT PTA親子レク	14:55	弁当
10	土	週休日		×
11	日	建国記念の日		×
12	月	振替休日		×
13	火	ALT 新一年生一日体験入学	14:00	○
14	水	お話タイム	14:00	○
15	木	中学年校外学習 図書館バス	14:00 14:55	○
16	金	冬のふるさと・親子レク予備日	14:00 14:55	弁当
17	土	週休日		×
18	日	週休日		×
19	月	表現教室②	14:00 14:55	○
20	火	ALT 食育指導予備日	14:00	○
21	水	読み聞かせ 食育指導予備日	14:00	○
22	木	児童会全体会議・役員選挙 クラブ	14:00 15:25	○
23	金	天皇誕生日		×
24	土	週休日		×
25	日	週休日		×
26	月	表現教室③	14:00 14:55	○
27	火	ALT	14:00 14:55	○
28	水	全校集会	14:00	○
29	金		14:00 14:55	○

■ご協力ありがとうございました ～2学期末保護者アンケート結果～

2学期末にお願いした「保護者アンケート」の結果がまとまりましたのでお知らせします。

【保護者アンケート結果】(A 4点 B 3点 C 2点 D 1点)

項目	観 点	平均点	前回	差
1	学校は、お子さんの学力向上のために、やる気を育てる授業、分かるようになる授業、できるようになる授業を行っている。 (保護者の方から) 本人は楽しく授業を受けているようですが、この人数なので、もっとやる気を引き出す指導や学習の定着、学びが深まる内容を期待します。	3.33	3.56	-0.23
2	学校は、保護者と協力しながら、家庭での学習習慣の定着、学習の充実のための取組を行っている。 (保護者の方から) 家でも声掛けしていますが、家庭学習習慣がついている子には次の段階(学習の充実、苦手分野の克服など)へと多少は負荷をかけていただきたいです。	3.67	3.33	-0.34
3	学校は、お子さんの発達の段階を考慮しながら、お子さんが運動を好きになったり、体力を向上させたりすることにつながる教育を行っている。	3.56	3.67	0.11
4	学校は、お子さんの協調性や思いやりを育み、豊かな心や創造性を育む教育を行っている。	3.89	3.33	-0.56
5	学校は、誰一人取り残すことがないよう、お子さんのよさや個性に合わせた教育を行っている。	3.89	3.78	-0.11
6	学校は、お子さんのよさや個性を生かし、子ども同士がお互いを尊重し合う教育を行っている。	3.89	3.67	-0.22
7	学校は、家庭・地域と協力しながら、ふるさとの自然・人・産業に関わる総合的・体験的な教育を行っている。	3.78	3.67	-0.11
8	学校は、お子さんのよさや個性を一層確実に育むため、ICT(タブレットやパソコンなどの情報通信技術)を活用した教育を行っている。 (保護者の方から) タブレット活用は学校内だけで行っていただき、家庭内には持ち込まないようにしていただきたいです。	3.44	3.56	0.12
9	学校は、「いじめは絶対に許されない」という考え方で、いじめが起こりにくい環境づくりを行い、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向けた取組を行っている。	3.78	3.67	-0.11
10	学校は、家庭への情報発信や家庭との連携を十分行っている。 (保護者の方から) 情報発信も連携もないわけではないのですが、子どもたちの表情や成長がなかなか見えてきません。「何をしているか」より、子どもたちの姿が見える情報発信を期待しています。	3.44	3.22	-0.22

自由記述欄

- ・今、保護者の間で来年やってみたいことやもっと子供に経験させたいことなどを話していて、地域の方や学校とよく話し合っていて進めたいと思っています。
- ・いつも学校であった出来事を楽しそうに話してくれているので先生方やクラスメイトと良い関係が築けていると思います。学校と保護者が協力して小規模校ならではの活動(アウトドアや農業、酪農に関するもの)がもっとできるようになるといいな、と思っています。
- ・放課後クラブへの送迎、行きはバスを出していただいているので助かっていますが、帰りや土曜日、夏休みなども路線バスや中学生のスクールバスを活用して和琴小エリアまで連れて帰ってくるようにできませんか?
- ・いつもお世話になっております。この地域は恵まれた自然環境があるので、それを生かした体験学習の割合を増やしてもらえればと思っています。具体的には「カヌー体験(春・夏・秋各1回)」「和琴キャンプ体験」「登山(藻琴山など)」「猛禽類医学研究所(釧路)の見学」「玉川大学職員によるトンボの生態についての講習」「摩周・屈斜路トレイルの踏破」、以上になります。なるべく先生方に負担をかけずに、私自身がガイドをすることもできますし、他の保護者の協力も可能と思います。各所に話をつなぐこともできるので、来年度の授業に取り入れていただければ嬉しく思います。

【学校から】いつも温かいご意見ありがとうございます。保護者の皆様の願いを受け止め、さらに連携を強めるため、3学期からは以下の3点に取り組んでいきます。

①項目1 授業改善

学力調査の結果分析から子どもたち一人ひとりの学習の成果と課題を明らかにするとともに、各学級における授業改善のポイントを保護者の皆様にお示しします。また、管理職による日常的な授業参観を通して個々の教師の「良さ」や「課題」を把握し、指導・助言を行うことで、教師一人一人が課題意識をもって授業改善に取り組めるようにします。

②項目2 家庭学習の充実

学年が上がるにつれて、家庭学習の充実を求める声が強くなっています。家庭学習の目的や目指す姿について各学級から保護者の皆様へ丁寧に情報提供し、学校と家庭の連携を強めながら進めていきます。また、家庭学習の力に応じた課題の出し方を工夫することで、一人ひとりにあった学習ができるようになります。

③項目10 家庭への情報発信

学校便りやホームページの内容を充実させることで、保護者や地域の皆様が和琴小の教育について理解を深められるようにします。また、学級においては、連絡帳や電話による家庭との連絡を密にすると共に、学校での子どもたちの表情や成長が具体的に保護者の皆様に伝わるよう、学級便りの書き方や参観授業の内容を工夫します。

なお、ご意見頂いた点につきましては、以下の通り対応させていただきます。

- ・体験活動については、PTAの協力を得ながら改善を図っていきます。
- ・スクールバスの利用については、登校バス時刻の改善も含めて教育委員会と連携しながら改善を図っていきます。
- ・タブレット端末の家庭での利活用については、長期休業中における全児童持ち帰りを基本としますが、各家庭の考えを尊重しつつ対応させていただきます。